

3月は子どもたちの旅立ちの季節でもありますね。多くの子どもたちが今年も大きな夢を持って新しい第一歩へと旅立っていくことだと思います。今月は、日本にもこんな施設があったらきっと子どもたちの夢の後押しをしてくれるだろうなあと感じた1冊をご紹介します。

『ぼくは少年鉄道員』 たくさんのふしぎ傑作集
西森聡／写真・文 福音館書店 2010年 1365円 ノンフィクション

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★★★ 小高学年★★★★ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

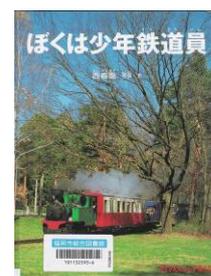
<本の紹介>

みなさんは大人になったらどんな仕事をしたいですか？もしかしたら、鉄道の運転手になりたい！と思っている人もいるかもしれません。けれど、自分で鉄道を実際に運転してみたことのある人は日本にはなかなかいないと思います。ところがドイツでは鉄道が好きな子どもたちが実際にお客さんを乗せて運転する鉄道が本当に存在するのです！運転はもちろん、車しょうや列車の運行管理、しゃたん機の上げ下ろし、車両のそうじまで、全て子どもたちが行います。この本は、そんなドイツの子どもたちが運転する鉄道の様子を、たくさんの写真とわかりやすい文章で紹介した本です。読んでみると、いいなあ！日本にもこんな鉄道があったらいいのに！ときっと思うと思いますよ。

<子どもに手渡すときのポイント>

紹介されているのはドイツのベルリン公園鉄道の様子です。旧東ドイツ時代、勉強と働くことを一緒にやればよりよい結果が生まれるとの考えから作られた施設の一つを、東西ドイツ統一後も子どもたちの熱い要望から引き継いだものだそうです。紹介されている子どもたちは、本当に生き生きとしていて、仕事の楽しさと責任、そして誇りを感じているのがわかります。こういう施設が日本にあるといいなあ！と心から思ったのですが、簡単に作れるわけでもないので、せめて本の中でも出会ってもらえれば、働くことの本当の素晴らしさと責任、そしてそこから膨らんでいく夢が子どもたちに伝わるのではないかと思います。

たくさんのふしぎ傑作集の1冊なので、ページ数も少なく、綺麗なカラー写真満載の1冊です。ただ、紹介しないとなかなか手にとられない本ではあります。ぜひ、大人の方から手渡してあげてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。 子ども図書館 重村 さやか